

# 海外自治体幹部交流協力セミナー2025（ロンドン事務所管内） 事業概要

## 1 テーマ

仙台市における国際的観光誘客と産学官連携の取組

## 2 参加者数：9名

Rizzo Gianluca（リッツォ ジアンルカ）
ブリクストンビジネス改善地区/ストラットフォードビジネス改善地区 代表
James Moore（ジェームス ムーア）
ノース・イースト合同行政機構 戦略プロジェクト責任者 兼 グレート・ノース部長
Liam Ronan-Chlond（リアム ロナン=クロンド）
サウス・ヨークシャー合同行政機構 戦略的パートナーシップ部長
Yvonne Mary O'Malley（イヴォンヌ・メアリー オマリー）
マンチェスター・シティ・カウンシル レジャー・イベント・契約部門責任者
Matt Hogan（マット ホーガン）
グレーター・ロンドン・オーソリティー ガバナンス・保証・パートナーシップ担当責任者
Lisa Smith（リサ スミス）
リバプール・シティ・カウンシル 戦略・業績・パートナーシップ担当部長
Karen Murgatroyd（カレン マーガトロイド）
リーズ・シティ・カウンシル 国際関係責任者
Polly Kwok（ポリー クォック）
ロンドン技術革新局 コミュニケーション・エンゲージメントマネージャー
Dan Peters（ダン ピーターズ）
The MJ ニュース編集者

## 3 日程〔2026年1月18日（日）～24日（土）〕

月日	予定	宿泊地
1/18(日)	・参加者来日、オリエンテーション	東京都
1/19(月)	・東京セミナー（日本の地方自治講義、外務省・総務省訪問） ・クレア主催歓迎レセプション	
1/20(火)	・受入自治体（仙台市）へ移動 ・地方交流事業（観光・広域連携施策の取組体験・歓迎夕食会）	仙台市
1/21(水)	・地方交流事業（視察）	
1/22(木)	・地方交流事業（視察、市施策説明、意見交換会） ・帰国前夕食会	
1/23(金)	・東京都へ移動・自由行動	東京都
1/24(土)	・参加者帰国	—

## 4 実施内容

### 《東京セミナー：1月19日（月）》

#### （1）日本の地方自治に関する講義（明治大学教授 木村俊介）

仙台市訪問前に、参加者の日本の地方自治に関する理解促進を図るため、明治大学大学院グローバル・ガバナンス研究科 木村俊介教授による講義を開催した。地方自治体の基本構造や役割についてご説明いただき、日本の地方自治体を取り巻く現状について理解を深めた。



#### （2）外務省

地方連携推進室 本田誠室長から、地方連携推進室が実施している地方連携事業の取組内容についてご説明を受けた。また、地方連携推進室職員から、地方自治体職員の在外公館勤務派遣制度の目的や効果などについてもお話をいただいた。地方自治体の国際交流の現状や課題、今後の連携強化の可能性について議論を交わした。



#### （3）総務省

大臣官房 田中聖也総括審議官にもご参加いただく形で、「日本の大都市制度」及び「地域経済の好循環に向けた施策」の2つのテーマのもと、意見交換会を行った。前者について自治行政局行政課職員から、後者について地域力創造グループ職員から取組と課題について説明を受けた。英国の都市制度や施策と比較しながら、総務省職員と参加者との活発な意見交換が行われ、双方にとって、学びを得られる有意義な議論の場となった。



#### （4）CLAIR 主催歓迎夕食会

当協会が歓迎夕食会を主催し、参加者9名のほか、当協会から常務理事、CLAIR ロンドン事務所赴任予定者等が参加した。参加者の関心事項や、所属自治体の取組等について話を伺うとともに、CLAIR 側の参加者からも派遣元自治体の紹介をするなど、情報交換を行い、互いに親睦を深める良い機会となった。



## 《仙台市セミナー：1月20日（火）～1月23日（金）》

### （1）瑞鳳殿

仙台市に移動した後、最初に青葉区の経ヶ峯に所在する瑞鳳殿を視察した。「瑞鳳殿ガイドの会」のボランティアガイドから瑞鳳殿の由来や華麗な装飾に関する説明を受けるとともに、仙台藩祖・伊達政宗公の生涯や数々の逸話について学んだ。これらを通じて、仙台市が形づくられてきた歴史や文化について理解を深めた。



### （2）「i-SENDAI」中心部商店街ガイドツアー

訪日外国人を中心とした観光客のための多言語観光案内所「i-SENDAI（仙台ツーリストインフォメーションデスク）」が提供するガイドツアーに参加した。

地元ガイドからの説明を受けながら、まちなかの神社仏閣やレトロな風情が残る「壺式参（いろは）横丁」や「文化横丁」はじめ、創業100年以上の老舗をいくつか巡った。商店街エリアの歴史や文化に触れるとともに、市中心部における観光誘客の取組についても学ぶことができた。



### （3）東北の「美酒・美食」の魅力発信機能強化事業 八戸フェア

仙台市が推進する「more TOHOKU」プロジェクトの一環として、セミナー期間中に開催されていた「八戸フェア」を視察した。本プロジェクトは、仙台市内の連携飲食店が東北各地のご当地グルメを提供し、各地へ足を運ぶきっかけをつくる「食のツーリズム」を推進する取組である。

視察を通じ、仙台市が東北の各地域と連携した観光促進の取組を体験するとともに、地域が協力して広域的に魅力を発信する観光プロモーションの実践例を学ぶことができた。



### （4）仙台市主催歓迎夕食会

歓迎夕食会が、仙台市中心部の複合施設「CROSS B PLUS」で開催された。本施設は、歴史的な芭蕉の辻の地において、人・文化・情報が交わり東北の魅力を発信する「芭蕉の辻プロジェクト」の拠点として整備された複合施設である。市文化観光局 岩城利宏局長の挨拶から始まり、東北産の食材を活用した創作料理を楽しんだ。終始和やかな雰囲気の中、仙台市職員と参加者の交流と親睦を深めることができた。



### （5）ナノテラス

産学官連携の取組を学ぶため、「3GeV 高輝度放射光施設 Nano Terasu」を視察した。同施設は、国を主体に、光科学イノベーションセンター、宮城県、仙台市、東北大学などによる官民地域パートナーシップのもと整備した世界最高水準の次世代放射光施設である。



視察では、光科学イノベーションセンターの副理事長を務める東北大学ナノテラス共創推進課 新堀雄一特任教授より、施設概要や研究内容、産学官連携の体制について説明を受けた。その後、施設内を巡り最先端研究の現場を視察した。ナノテラスを取り巻く地域拠点形成の計画についての質問等、参加者から多くの質問が出され、教授と有意義な意見交換が行われた。

#### (6) 仙台城跡（伊達政宗公騎馬像・青葉山公園）

仙台の象徴である伊達政宗公騎馬像の前で記念撮影をした。仙台市職員から、仙台城（青葉城）の山城としての由来や歴史について説明を受け、理解を深めることができた。天候にも恵まれ、仙台市街を一望できる美しい景観を眺めることができた。



#### (7) 震災遺構 仙台市立荒浜小学校

東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸部を訪れ、震災時に、児童や教職員、住民ら 320 人が避難した荒浜小学校を視察した。現在は震災遺構として、津波の脅威や震災の教訓を伝えるために、被害の様子がそのまま公開されている。当時の校長ご本人から当時の様子をお話いただきながら 1 階から 4 階、そして屋上まで見学した。



最後に、職員から参加者に手作りのしおりが贈られた。震災の記憶を忘れないこと、未来への希望も失わないこと、職員の想いが刻まれていた。避難訓練の積み重ね、災害への備えの大切さについて深く学ぶ機会となった。



#### (8) せんだい 3.11 メモリアル交流館

地下鉄東西線・荒井駅に併設された「せんだい 3.11 メモリアル交流館」を視察した。同館は、1 階に震災関連の書籍、2 階に展示スペースを備え、震災の記憶を継承する拠点として活用されている。



視察時には、交流館および地下鉄東西線開業 10 周年記念企画展が開催されており、被災者でもある職員から復興の歩みについて説明を受けた。また、参加者側からもロンドンの火災や洪水の経験を共有するなど災害の教訓を相互に学ぶ機会となった。震災以前の大地震は約 400 年前とされ、その記憶が継承されていなかったことから、3.11 の教訓をいかに後世へ伝え未来の命を守るかについて、参加者に深い考察を促す視察となった。



#### (9) アクアイグニス仙台

仙台市の防災集団移転促進事業による集団移転跡地となった地区に再び人々が集える空間を創出することを目的に誕生した「アクアイグニス仙台」。本施設のレストランで昼食を取り、地産食材等を販売するスーパーを視察した。



## (10) JR フルーツパーク仙台あらはま

本施設も市の「防災集団移転跡地利活用事業」の一環として、荒浜地区をもう一度人々の笑顔が集う場所にしたいという思いから、JR東日本グループ企業が整備した「観光農園」である。通年で旬の果物や野菜の収穫体験や購入ができ、参加者は施設について説明を受けた後、いちご狩りを体験した。

参加者は、粒が大きく高品質ないちごに感銘を受け、その栽培技術や果物狩りの運営方法に強い関心を示していた。



## (11) 共創・賑わい拠点「YUINOS」

仙台市がNTTとのスタートアップ支援に関する連携協定に基づき整備したシェアオフィス「YUINOS(ゆいのす)」を視察した。本施設内には、市のスタートアップ支援拠点である「仙台スタートアップスタジオ」も併設されている。担当課職員から、東北大学と連携したスタートアップ支援に係る取組や、リサーチコンプレックス形成推進に向けた施策について説明を受けた。その後施設全体を見学し、利用者の様子や施設環境を確認した。

英国におけるスタートアップの現状と課題を共有しつつ、システムの仕組みなどについて情報交換を行う機会となった。



## (12) 仙台市職員からの施策説明・意見交換会

これまでの視察内容を踏まえ、各分野の担当職員から改めて施策説明を受け、意見交換会を実施した。まず、文化観光局職員より、仙台市の国際観光誘客施策や東北広域連携の取組について、その後、経済局職員より「防災×IT」(BOSAI-TECH)やドローン等の実証実験に基づく防災関連産業の取組について説明を受けた。

参加者からは、今年度から導入された宿泊税制度に関する質問をはじめ、多岐にわたる質問が寄せられ、活発な議論が交わされた。



## (13) 仙台市長表敬

仙台市の受け入れに対する謝意を伝えるため、仙台市 郡和子市長を表敬訪問した。訪問では、市長から温かい歓迎の言葉をいただいた。サウス・ヨークシャーからの参加者が代表挨拶を行い、双方が国の北部に位置し、緑豊かな都市である共通点を踏まえ、仙台市との親和性に言及した。続いて、参加者一人一人からも、命と安全の取組から得た学びや、仙台市民との交流を通じた経験について感想を共有した。



## (14) 帰国前夕食会

セミナーの最後に、ホテルのレストランにて帰国前夕食会を開催した。参加者は、仙台市職員との最後の交流機会を楽しんだ。終始和やかな雰囲気のもと仙台セミナーの幕締めとなった。